

# 全ての方の「コミュニケーション手段の普及を目指して」



問合せ／本庁障害・社会福祉課障害福祉G(内線2162・2181)

## 多様なコミュニケーション

私たちは、日常生活において、コミュニケーションを取ることで、意思や感情を伝えたり、必要な情報を入手したりしています。

しかし、聴覚や視覚に障害がある方は、自分が使用するコミュニケーションの手段を理解してもらえないことにより、コミュニケーションを図ることが難しく、情報を入手することに苦労しています。

全ての人が、等しくコミュニケーションをとれる社会であつたらすてきだと思いませんか。

## まずは知ることから

障害のある方に対し、まずは相手を理

解すること、分かるうとする気持ちで接することが大切です。

書いて伝える筆談であつたり、身振り手振りで伝えるジェスチャーもその一つと言えるでしょう。

市では、そのような方のコミュニケーションのサポートや情報取得ができるように、各種講習会の開催や、手話通訳者を派遣する事業などを実施しています。



ぜひ、講習会への参加や奉仕員、活動へのご協力をお願いいたします。

※年度始めから約1年間の講習期間となります。また、実施していない年度もあります。

## 「手話言語等に関する条例」ができました

正式名称は「薩摩川内市手話言語等コミュニケーション手段の普及と利用の促進に関する条例」です。(令和4年3月25日制定)

この条例では、基本理念として、次のようにうたわれています。

「障害の特性に応じたコミュニケーション手段(※)の利用の促進は、障害の有無にかかわらず、相互の違いを理解し、互いの人格と個性を尊重することを基本として行わなければならない。市、市民及び事業者は、障害の特性に応じたコミュニケーション手段を確保するため、それぞれの責務や役割を相互に認識し、連携して取り組まなければならない。」

※手話、音訳、要約筆記、筆談、字幕、点字、重度障害者用意思伝達装置など



▲条例本文はこちらから

## 小さなことからでもまずはあなたの第一歩を

基本理念にあるように、障害の有無にかかわらず、全ての方の意思疎通が円滑に行われ、互いに人格と個性を尊重し合いながら、共に生きる社会を実現するためには、多くの方の理解と協力が必要です。

まずは、「簡単な手話を覚えてみよう」とか「講習会のことを尋ねて構いません。」

皆さんの善意と勇氣に溢れた第一歩をお願いいたします。

※詳しくは本庁障害・社会福祉課に問い合わせてください。

次のページ「人のとなりに」では、手話サークルの代表として活躍する中野美紀さんの思いに寄り添います。

## 手話奉仕員養成講習会 手話通訳者養成講習会



聴覚障害者の独白言語でもある「手話」を学ぶことで、健聴者と聴覚障害者の間の日常生活に必要なコミュニケーションのサポートができる人材の育成を目的としています。

## 点訳奉仕員養成講習会



視力障害者の福祉の増進を図るため、点訳の指導を行い、広報紙など、さまざまな文字情報を、点字図書にして提供することを目的としています。

## 音訳奉仕員養成講習会

視力障害者の福祉の増進を図るため、音声訳の指導を行い、視力障害者へ広報紙などの録音図書を作成することを目的としています。

## 意思疎通支援事業

聴覚障害者が健聴者と日常生活に必要なコミュニケーションを取るために、手話通訳者を派遣し、意思疎通のサポートを行います。

## 広報紙の点訳・音訳

月2回発行される市広報紙を点訳(点字図書)・音訳(CD化)し、視覚障害者に配布します。

## 手話を覚えよう

手話と聞こえ方の違いから覚えておくと便利です。イラストでわかりやすく説明しています。印刷用紙も用意しています。(※イラストはお茶臼の人のイラストを参考にしています。)



# 人のとなりに

なかの 中野 美紀さん



「人のとなりに」とは…  
文字通り、その人の隣にいて、思いに寄り添うことや人柄を表す言葉「人となり」をイメージしたコナニで、人物や活動の紹介だけでなく、その人の思いにスポットを当てていくことを目的としています。

## 患者さんと心を通わせるために

医療機関で看護師として勤務する中野美紀さんは、20年以上前のある日、聴覚に障害のある患者さんに出会いました。でも、その当時、手話も何もできなかったことから、患者さんのケアを十分にできなかったと後悔していました。

その事がずっと心に残っていた中野さんは、いつしか「手話を学びたい」と思うようになっていきましたが、なかなか踏み出すことができず、気付けば、10年以上の月日が流れていました。それでも、心のどこかでずっと忘れられない思いを持ち続いていた中野さんは、ある日ついに決意し、市が主催する「手話奉仕員養成事業」と「手話通訳者養成事業」の講座を初めて受講したのです。

## 手話サークルとの出会いと 思い出のエピソード

手話は、講座を受講しただけで一朝一夕には身に付かないと考えていた中野さんは、手話サークルの存在を知ると、講座終了後も自らサークルに参加し、強い気持ちで学びを続けます。「手話は使われないと忘れてしまうので、常に学習が必要で、無理のない範囲で継続してい

く事が大切だと思っています。そう話す中野さんの手話歴は、いつしか9年を数え、自然とサークルの代表を任せられるようになっていきました。

手話サークルの活動は、月2回の学習会の開催(基本第2・第4火曜日)と、小学校の福祉体験授業の中で行われる「手話体験」でのボランティア訪問などです。

ある日の手話体験でのボランティア訪問時のこと。  
授業が終わって帰ろうとする中野さんたちを1人の児童が追い掛けてきました。質問があるのかなど足を止め、見つめる中野さんたちにその児童は、「ありがとう。また会いましょう」と授業で教わったばかりの手話で話し掛けてくれたのです。

## 手話を通じたコミュニケーションに思うこと

手話サークルでは、これまで川薩地区ろうあ協会の方々と夏と冬の交流を重ねてきました。また、中野さん個人としては、新型コロナウイルス感染症のワ

クチン接種時や、その他、市主催の催しの際に手話通訳で活動が続いています。

「簡単に手話を使うことはできなくても、まず、『手話』って何?と1人でも多くの方に興味を持ってもらいたいと思っています。」

そして、手話は皆さんが日常的に使う「音声言語」と同じように聴覚に障害のある方にとって「言語」である事を知ってほしいです。

私たちが普段「日本語」を話すように、「手話」が当たり前の社会になっていけば良いなと思います。

そのためには、市民の皆さんが手話を学ぶ機会の確保や、支援体制の整備、学校における取り組みの促進など、さまざまな課題もあります。

「手話」に限らず、今回の「手話言語等に関する条例」の制定などを通して、自分たちには何ができるかを考え、全ての人が優しい社会になったら良いなと思います。

そう話す中野さんは、聴覚に障害のある方々の支えになりながら、今日も手話の普及に励んでいます。



市内の医療機関で看護師として勤務しながら、手話サークルで活動する中野さん。  
今回は、自身の経験から日々手話の勉強や普及に励む中野さんの思いに寄り添います。

